

カール エルベスを代表する「ヴェルツガルテン」より 極上のアウスレーゼ 2種類が新入荷しました！



NEW!!

NEW!!

ユルツィガー ヴェルツガルテン リースリング アウスレーゼ 2014 Ürziger Würzgarten Riesling Auslese

ユルツィヒ村の銘醸畑「ヴェルツガルテン（スパイスの庭）」からのワインです。貴腐葡萄を75%使用した特別なアウスレーゼです。非常に濃い色合いで、熟成によって複雑さが増しています。フレッシュな酸はありますが、柔らかく、深みある味わいを楽しめます。近年、雑誌評価が一流生産者と遜色のないほどに上がっているエルベスですが、バックヴィンテージの品質も実に見事であることが実感できる貴重な1本です。

★「ラインラントファルツ州品評会」
金賞

白・甘口 <Alc. 8.5%>
国/地域等：ドイツ/モーゼル
葡萄品種：リースリング
残糖：103.0 g/L 酸度：8.9g/L
品番：KA-817/容量：750ml
JAN：4935919198172
¥4,950(本体価格¥4,500)



ラベルデザインが新しくなり、より高級感が増しました！

ユルツィガー ヴェルツガルテン リースリング アウスレーゼ ☆☆☆ 2019 Ürziger Würzgarten Riesling Auslese ☆☆☆

ユルツィヒ村の銘醸畑「ヴェルツガルテン（スパイスの庭）」からのワインです。カール エルベスでは、特に優れたワインに☆をつけることで、通常のキュヴェとは区別しています。中でも☆☆☆（3ツ星/スリースター）は最上級品です。現地で試飲した弊社スタッフは、「飛びぬけて素晴らしい品質」とコメントしています。高い糖度に負けない、見事な酸があります。

★「ラインラントファルツ州品評会」
金賞

白・極甘口 <Alc. 8.5%>
国/地域等：ドイツ/モーゼル
葡萄品種：リースリング
残糖：124.1 g/L 酸度：8.7g/L
品番：KA-816/容量：750ml
JAN：4935919198165
¥9,350(本体価格¥8,500)

ヴァイングート カール エルベス

WEINGUT KARL ERBES

ムルツィヒ村を代表する生産者
38年にわたり日本で愛され続けています



ヴァイングート カール エルベスは、1967年にカールによって設立された小規模なヴァイングートです。エルベス家は代々ムルツィヒ村に住む家系で、現在、カールの息子で2代目のシュテファンによって運営されています。弊社が初めてカール エルベスを訪問したのは1985年です。当時カールとアリス夫妻でワイン造りを行っており、息子のシュテファンが加わったばかりの頃でした。そして、品質の高さと魅力的な価格に驚き、1984VTから取り扱いをスタートしました。当時から彼らのワインは日本市場でも受け入れられ、38年経った現在でも弊社のドイツワインを語る上で欠かせない存在であり続けています。

ワイナリーを創設したカールは、凄腕のワインメーカーとして名を馳せた人物で、1960年代から1970年代の間に、同時に7つのVDP生産者のワインメーカーをしていました。また、他のベルンカステラーリングのメンバーを含む生産者も担当しており、有名なクリストフェル ベレスでも、1997年までの30年間ほどをワインメーカーとして務めるなど、その手腕は高く評価されました。カールは、2002年に息子のシュテファンにヴァイングートの運営を任せ、一線を退きます。このように、ワイナリーの礎を築き、ワインメーカーとしても活躍したカールですが、2022年5月31日に惜しまれながらこの世を去りました。カールはシュテファンに引き継いだ後も、弊社が現地訪問するたびに必ず顔をだし、私たちを歓迎してくれました。時にはテーブルを囲み一緒に食事や談笑をすることもあり、久々に家族の元へ帰ってきたような気持ちにさせてくれる存在でした。



エルベス家が所有するヴェルツガルテンの畑
2000年現地訪問にて撮影

カールが引退して20年が経ちますが、ワイナリーを引き継いだシュテファンは、偉大なる父の造り上げたワインの品質をさらに向上させ続けており、その見事なワインの出来栄は、まさに「リースリングの芸術品」だと確信させられるほどです。近年、ワインガイドでの評価も軒並み高く、「ヴィヌム 2022」で3.5星、「アイヒェルマン 2021」で4星、「ゴエミヨ 2020」で3房。また、ヒュー ジョンソン「ポケット ワインブック 2019」ではムルツィヒの優良生産者として紹介されています。2012年のラインラントファルツ州品評会で「特別栄誉賞」を受賞し、2年に1度開催される「プロリースリング」で、2011、2013年と2年連続して「醸造者賞」を受賞するなど、ムルツィガー ヴェルツガルテンを代表する生産者として広く知られています。『ワイン アドヴォケート』の2022年12月31日付の記事、「Germany: The 2021 Whites, 2020 Reds and Late Releases - Time To Be Excited」内で、評者のシュテファン ラインハルトはエルベスについて「ひそかにますます良くなっている生産者」のひとつとして取り上げています。

個性的な赤色粘板岩から生み出される アロマティックで桃を思わせる個性的なリースリング

ヴェルツガルテンは「薬草/スパイスの庭」という意味で、ムルツィヒ村に特徴的な赤色粘板岩により、葡萄にスパイシーさや個性的な風味を与えられていると言われています。およそ3億年前に東部にあるヴィットリッヒ村周辺で火山が噴火し、鉄分を多く含む赤色の火山礫（ロートリンゲン）がムルツィヒ村にもたらされることになりました。火山礫は雨で流されていきましたが、鉄分を含むミネラル成分がもともとの粘板岩（青・灰色）に移り、赤色粘板岩が生まれました。ラインヘッセンのニアシュタイン村やナーエのトライゼン村、モーゼルではムルツィヒとエルデン村のトレブヒェンとプレラートにしかほとんど見ることが出来ない特殊な岩石です。ムルツィガー ヴェルツガルテンからエルデナー トレブヒェンに向かって行くにつれて赤色が薄くなり、隣のレスニッヒャー フェルスターライになると全て青色の粘板岩になります。



この断崖絶壁のような畑は、勾配は約70%（傾斜角約35度）と非常に急で、機械が入ることも出来ません。畑仕事が非常に困難なため、引退してしまう人もいます。スレート土壌で足場が悪いため、支柱に掴まり、ビュッテと呼ばれる収穫用の桶を背負いながら、横に移動し葡萄を摘み取る作業は大変な重労働だと想像できます。カール エルベスのワインを輸入し始めて38年が経ちますが、ヴェルツガルテンの畑を訪れる度に、「労働に対して世界一安いワインだ」と思わずにはられません。